

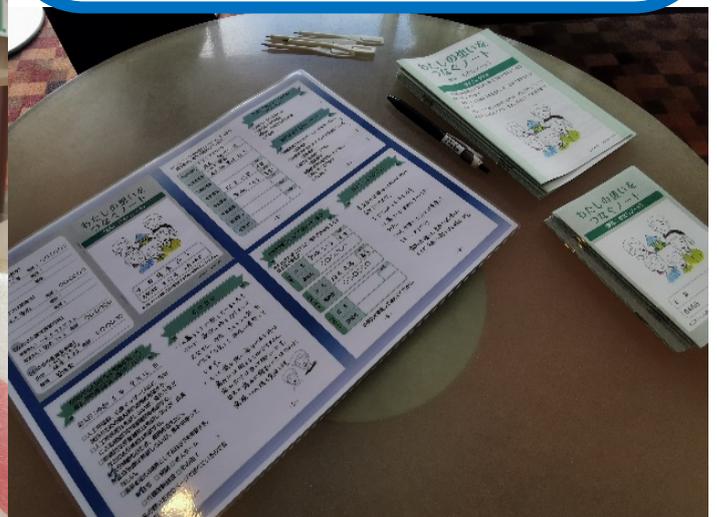
会員の皆さま、いつも大変お世話になっております。

令和5年9月16日（土）、いわき芸術文化交流館アリオスにおいて開催されました「いごくミーティング2023～ジンセイカイギ～」の運営に参加・協力してきましたのでご報告致します。



「“わたしの想いをつなぐノート”(以下“わたしノート”)を書いてみよう。ACPについて考える！」

元気なときから人生の最期をどこで過ごし、どのような医療を受けたいかを意識して考えるきっかけとして欲しいとの思いから、“わたしノート”を書くサポートをMSWやケアマネジャーなどの多職種でサポートさせていただきました。



薬剤師、訪問看護師、MSW、ケアマネジャーなどの多職種が集まり、人生の最期を考えるきっかけづくりをサポートさせていただきました。

“わたしノート”の記入の際には、参加された方より「心臓マッサージをうけたくない」、「自宅で亡くなりたい」、「胃瘻はつくりたくない」など、ご自身が人生の最期を迎えるにあたっての具体的な希望をお聞きすることができ、その希望をもとに、参加者おひとりひとりらしい“わたしノート”を作成することができたと感じております。

特にご自宅で一人暮らしの方は「自分自身がどのような最後を迎えたいか？」ということを考える意識が高く、日本の死に対する考え方やお住まいの場所の地域性、さらにはご自身が置かれている環境を踏まえたうえで、「人生の最期をどのように迎えたいか？」ということを具体的にお聞かせくださる方もいらっしゃいました。

私たちケアマネジャーは、ご利用者やご家族の意向を直接お聞きする機会が多くあります。今回の経験を通して、まずは、ご利用者やご家族にもこのACPということを知っていただき、ご自身の人生の最後を考えていただく機会をお作りすることが、ACPの普及につながり、その人がその人らしい最期を迎えることができるのではないかとあらためて感じました。

#### 【参考 URL】

- ・ [わたしの想いをつなぐノート](#)
- ・ [わたしの想いをつなぐノート（書き方の手引き）](#)

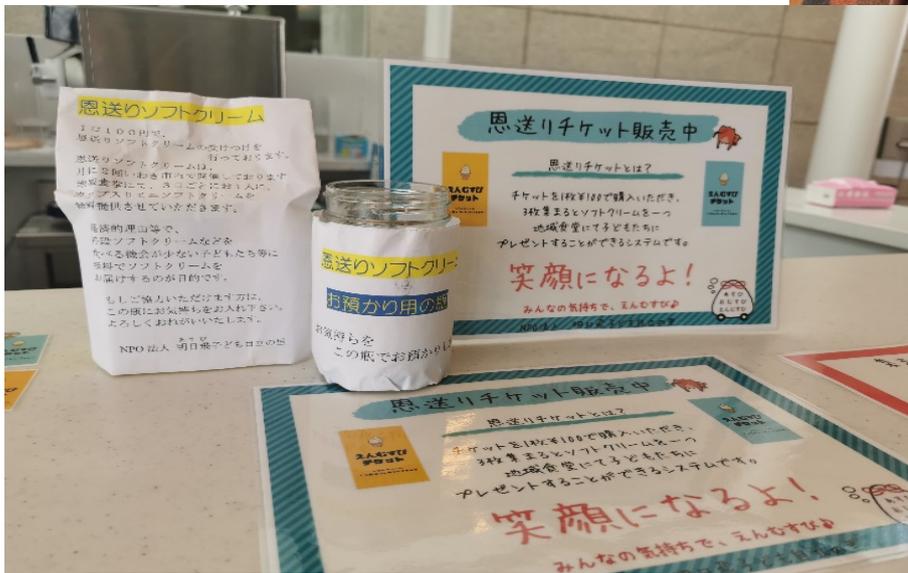
以下会場の様子となっております。



在宅医療に関するパンフレットなどがあり、わかりやすく図解されておりました。



「医療用モデル人形を利用した医療ケアの実際」  
“終末期に起こり得ること”がわかりやすく展示されておりました。  
写真は胃瘻・バルーンカテーテルです。  
ベッドが2台あり、もう1台には、在宅酸素や褥瘡などがわかりやすく展示・説明されておりました。



「NPO 法人明日飛（あすび）子ども自立の里 いわき地域若者サポートステーション」様による“恩送りチケット”の展示・説明や飲食ブース（お弁当、ソフトクリーム）です。



令和5年10月27日 いわきケアマネ協会：佐藤 久美子、須釜 初恵、鈴木 亜希、飯野 友博